建　築　工　事　　特　記　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要

1．工　事　名　称	
2．工　事　場　所	
3．工　期	平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日
4．用 途 地 域 等	都市計画区域（・　内　・　外）　用途地域（　　）
	防火地域等（・　防火　・　準防火　・　指定なし　・　２２条　）
	その他の地域・地区（　　）
5．構 造 規 模 等	（　　）造　　地上　　階　　地下　　階
	主 要 用 途
	敷 地 面 積
	建 築 面 積
	延 べ 面 積
6．別　途　工　事	
7．そ　の　他	

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様

1．共通仕様
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて「公共住宅建設工事共通仕様書 建築編（平成28年度版）」（以下、「公住仕 建築編」という。）による。

2．特記仕様
1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。ただし、⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。⊙印と⊗印の付いた場合は、ともに適用する。
3）項目又は特記事項に記載の（　）内の表示番号は、「公住仕 建築編」の該当項目を示す。
4）特記事項の「機材の品質・性能基準」は、公共住宅建設工事機材の品質・性能基準（公共住宅事業者等連絡協議会）」を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	1．一般事項	・工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監督職員に報告の上、指示に従うこと。 ・工事受注者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。
	2．設計図書等の取り扱い (1.1.1) (1.1.6)	・本工事は工事請負契約約款に基き、施工する。 ・設計図書相互に相違がある場合の優先順位は下記による。 1．質問回答書 2．現場説明書 3．特記仕様書 4．図面 5．公住仕　建築編（平成28年度版） 6．公共住宅建設工事機材の品質・性能基準（平成28年度版） 7．国土交通大臣官房官庁営繕部「敷地調査共通仕様書」（平成27年10月改定版） 8．国土交通大臣官房官庁営繕部「建築物解体工事共通仕様書」（平成24年版） 9．JISその他公共規格及びこれに準ずる規格 疑義 ・本工事の設計図書に関する疑義は工事契約前に質疑応答書により確認するものとする。 ・本工事施工中に生じた疑義は、工事前に質疑応答書に準ずる記録書として作成する。 ・設計図書に明示がない事項でも、外観上、構造上、設備上、当然必要と認められるものは、監督職員の指示に従い請負金額の範囲内において施工するものとする。
	3．概成工期 (1.2.1)	工事工期より　　日前
	4．設計G.L.	※図示　　・現状平均地盤高
	5．工事実績情報(CORINS)の登録 (1.1.4)	※適用する（請負精算額が500万円以上の場合） 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・適用しない
	6．施工管理体制に関する書類の提出	建設業法に基づく施工管理体制台帳を作成した場合は、施工管理体制に関する以下の事項について監督職員に提出する。 1．建設業法施工規則第14の2第1項に掲げる事項 2．安全衛生責任者名、安全衛生推進者名及び雇用管理責任者

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	7．設備工事との取合い	施工範囲　各工事の区分表による。 施 工 図　設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。
	8．電気保安技術者 (1.3.3)	・適用する　　・適用しない
	9．火災保険等	工事目的物及び工事材料等について、次により保険に付す。 保険の種類　※火災保険　※建設工事保険 保険期間　※工事着手から工事目的物の引き渡しまで
	10．住宅瑕疵担保責任	住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け ・あり（新築住宅の場合）　・なし（新築住宅以外の場合）
	11．発生材の処理等 (1.3.11)	発生材の処理 ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの 種　類 ｜ 受入施設名 ｜ 所在地(Km) ｜ 備考 ・セメントコンクリート塊 ｜ ｜ ｜ ・アスファルトコンクリート塊 ｜ ｜ ｜ ・建設発生木材 ｜ ｜ ｜ ・建設汚泥 ｜ ｜ ｜ ・現場において再利用を図るもの（　　） ・その他の廃棄物（安定型）（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・その他の廃棄物（管理型）（　　） 受入れ施設名・所在地(km) 上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
	12．災害時の安全確保 (1.3.9)	工事の施工中に事故が発生した場合は、直ちに監督職員に通報するとともに、別に指示する「事故報告書」を監督職員に提出する。
	13．建築材料等 (1.4.2)	材料の品質等 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとする。 特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
	(1.4.1)	環境への配慮 本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては、ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。 ホルムアルデヒド 使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の該当する建築材料 1．ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品 2．建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 3．次の表示のあるＪＡＳ適合品 a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b．接着剤等不使用 c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
	(1.4.5)	試験機関 ・公的試験所 ・ＪＩＳマーク表示認証を取得した製品を製造する工場 ・ＩＳＯ９０００ｓに基づく品質システムの審査登録を受けた試験所 ・その他の試験所（・製造者の自社試験所　・　　）
	14．特別な材料の工法	「公住仕　建築編」に記載されていない特別な材料の使用は監督職員と協議し、その工法は、当該製品の指定工法とする。
	15．建築基準法による風圧力等の指定	(8.4.3) (8.5.3) (9.4.4) (10.5.3) (13.2.3) (13.3.3) (13.4.3) (14.7.3) (16.11.2) (16.12.2) (16.13.2) (16.14.5) (23.5.4) 適用工事 ｜ 建築基準法の指定 ・長尺金属板葺　・折板葺 ｜ 風速(V0)　※30　・ ・粘土瓦葺　・アルミニウム笠木 ｜ 地表面粗度区分　・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・ガラスブロック　・ＡＬＣ外壁パネル ｜ 多雪地域の指定　・有　・無 ・合成高分子系シート防水（機械固定） ・石材乾式工法 ・押出成形セメント板外壁パネル ・重量シャッター　・軽量シャッター ・オーバーヘッドドア　・屋上緑化

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	16．技　能　士 (1.5.2)	※下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一等級技能士を配置する。 ・下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一等級技能士を配置する。 ・下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。 工　事　種　目 ｜ 技能検定職種（技能検定作業） 以下の該当工事 ｜ ・該当する作業がある以下の職種（作業）の全て 仮設工事 ｜ ・とび（とび作業） 鉄筋工事 ｜ ・鉄筋施工（鉄筋組立作業） コンクリート工事 ｜ ・型枠施工（型枠工事作業） ・コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業） 鉄骨工事 ｜ ・とび（とび作業） ・鉄工（構造物鉄工作業） コンクリートブロック ｜ ・ブロック施工（コンクリートブロック工事作業） ＡＬＣパネル ｜ ・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業） 防水工事 ｜ ・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄﾄｰﾁ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業　） 石工事 ｜ ・石材施工（石張り作業） タイル工事 ｜ ・タイル張り（タイル張り作業） 木工事 ｜ ・建築大工（大工工事作業） 屋根及びとい工事 ｜ ・建築板金（内外装板金作業） ・かわらぶき（かわらぶき作業） 金属工事 ｜ ・内装仕上施工（鋼製下地工事作業） ・建築板金（内外装板金作業） 左官工事 ｜ ・左官（左官作業） 建具工事 ｜ ・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業） ・自動ドア施工（自動ドア施工作業） ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事 ｜ ・カーテンウォール施工（金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業） ・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業） 塗装工事 ｜ ・塗装（建築塗装作業） 内装工事 ｜ ・内装仕上施工（・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・木質系床仕上作業 ・ボード仕上工事作業　） ・表装（壁装作業） 排水工事 ｜ ・配管（建築配管作業） 舗装工事 ｜ ・路面表示施工（・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業　） 植栽工事 ｜ ・造園（造園工事作業）
	17．施工の立会い等 (1.5.7)	「公住仕　建築編」に定めがあるもの以外で、次に示す工事段階及び事項については監督職員の確認を受ける。 1．工事工程表 2．工事仮設計画書及び施工計画書 本工事の仮設・施工方法等に関する計画は、設計図書に特別定めない限り受注者の責任において定めるものとする。 3．製作工程表 施工図、原寸図、部品製作図等は製作前に作図期間、チェックバック期間、承認日を記載した製作工程表を作成する。 4．施工図、原寸図 施工上必要な施工図、原寸図、部品製作図等は停滞なく作成する。 5．総合図 (1).工事の着手に先立ち、平面詳細図、総合プロット図（外構プロット図共）天井伏図を作成する。 (2).総合図は、建築、設備等本工事及び、別途発注工事の情報をすべて盛り込みこれらの調整を行う。 (3).総合図は、必要に応じて展開図、詳細図等で補足する。
	18．化学物質の濃度測定 (1.5.9)	・ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定 採取方法　・吸引方式　・拡散方式　（拡散方式では８時間採取する） 工事の施工完了後、引渡しをするまでの間に、下表の揮発性有機化合物の室内濃度を測定し、指針数値以下である事を確認し、報告する。 測定物質、測定方法 種類 ｜ 指針値 ｜ ・ｼﾞﾆﾄﾛﾌｪﾆﾙﾄﾞﾗｼﾞﾝ誘導固相吸着／溶媒抽出法で採取し、高速液体ｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ法によって行う ホルムアルデヒド ｜ 100μg／m3 (0.08PPM)以下 ｜ ・その他（　　） トルエン ｜ 260μg／m3 (0.07PPM)以下 ｜ ・次のうちいずれかの測定方法とする。 キシレン ｜ 870μg／m3 (0.20PPM)以下 ｜ 固相吸着／溶媒抽出法で採取し、ｶﾞｽｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ一質量分析法によって行う。 エチルベンゼン ｜ 3800μg／m3 (0.88PPM)以下 ｜ 容器採取法で採取し、ｶﾞｽｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ一質量分析法によって行う。 スチレン ｜ 220μg／m3 (0.05PPM)以下 ｜ ・その他（　　） ――― ｜ ―μg／m3 (―PPM)以下 ｜

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項		測定結果等報告書の提出 次の事項を記載した報告書を（　部）提出する。 1．測定結果 2．試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射進入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数） 3．試料採取方法，測定方法，使用した測定機器
	19．完成図等 (1.7.2)	原図（　部）及びその複写製本（A1版　部　A3版　部） CADデータ（　部）保存形式及び保存媒体は監督職員の指示による。 完成図書（A4版ファイル　部（正　部、副　部）とする。
	20．完成写真	・作成する　・作成しない 分類 ｜ サイズ ｜ 撮影箇所数 ｜ 部数 ｜ 提出様式 ※カラー ｜ ・Ｌ程度 ・２Ｌ程度 ・六切り程度 ｜ ・　箇所　枚 ｜ ※１部 ・　部 ｜ ・工事用アルバムA4版 ・フリーアルバム
	21．保全に関する資料 (1.7.3)	次の事項を記載した保全に関する資料を（ ※２部　・　部 ）提出する。 1．建築物等の利用に関する説明書 2．機器取り扱い説明書 3．機器性能試験成績書 4．官公署届出書類 5．主要な材料、機器一覧表

			工事名称	縮　尺	図面　No
			図面名称		1

2 仮設工事

1. 仮囲い
・設ける　・設けない
・成形鋼板　（・H=3.0m　・H=　）

2. ゲート
・パネルゲート　（・H=　m、W=　m）
・シートゲート　（・H=　m、W=　m）

3. 交通誘導員
・配置する（　日　×　人　＝　人日）　・配置しない

4. 監督職員事務所
・設ける　・設けない
・規模（・20㎡程度　・40㎡程度　・60㎡程度　・　㎡程度）
・備品（　）

5. 工事表示板
・設置する　・設置しない

6. 工事用水
構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　・利用できない

7. 工事用電力
構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　・利用できない

8. 工事用通路
・指定しない　・指定する（図示）

9. 足場等 (2.2.4)
足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。

10. その他の仮設
・

3 土工事

1. 埋戻し及び盛土の種別 (3.2.3)(表3.2.1)
・A種　・B種　・C種　・D種
C種の場合　建設発生土受入数量　㎥
発生場所

2. 建設発生土の処理 (3.2.5)
※構外に搬出　・構外指示の場所に搬出
構外指示の受入れ　施設名（　）
所在地（　km）
・構内指示の場所に敷き均し
・構内指示の場所にたい積

3. 山留め (3.3.1) (3.3.3)
・設置する　・設置しない
・存置する　・存置しない

4. 地中障害物
工事上支障となる埋設物が発生した場合は、埋設物名、場所、寸法等を記入した資料に写真を添えて提出すること。

4 地業工事

1. 杭の載荷試験 (4.2.3)
・行う（位置は図示による）　・行わない

2. 地盤の載荷試験(4.2.4)
・行う（位置は図示による）　・行わない

3. 既製コンクリート杭・鋼杭地業 (4節、5節)
杭の種類
・既製コンクリート杭
・鋼杭　（・鋼管ぐい　・H形鋼ぐい）

試験杭の位置　・図示による

継手　・アーク手溶接　・無溶接継手

先端部形状　・閉塞平坦型　・開放型

杭の工法
・打込み工法
・セメントミルク工法
・特定埋込杭工法

水平方向の位置ずれ精度　※100mm以内　・
杭頭の処理　・切断しない　・切断する

4. 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.3)(表4.5.1)
コンクリートの種別　・A種　・B種
コンクリートの設計基準強度　（　N/mm2）
コンクリートの構造体強度補正値　※3N/mm2　・
セメントの種類　※高炉セメントB種　・
試験杭の位置　・図示による
杭の工法
・アースドリル工法
安定液　・使用する　・使用しない
・リバース工法
・オールケーシング工法
孔内の水張り　・行う　・行わない
孔壁の超音波測定　・行う　・行わない
水平方向の位置ずれ精度　※100mm以内　・

5. 砂利地業 (4.6.2～3)
・再生クラッシャラン　・切込み砂利及び切込み砕石
厚さ　※60mm　・　mm

6. 捨てコンクリート(4.6.4)
コンクリートの設計基準強度　（Fc　N/mm2）
厚さ　※50mm　・　mm

7. 床下防湿層 (4.6.5)
・設ける　地中梁がある場合は、250mmのみ込み　厚さ　mm
・設けない

8. 土間スラブ（土間コン）下断熱材
・設ける　A種ポリスチレンフォーム3種b　厚さ（・25mm　・　mm）
・設けない

9. 地盤改良
工　法（・　）

5 鉄筋工事

1. 鉄筋の種別 (5.2.1)(表5.2.1)

規格名称	種類の記号	径(mm)
鉄筋コンクリート用棒鋼	・SD295A	・D10～D16
	・SD345	・D19～D25
	・SD390	・D29以上
建築基準法37条認定	・高強度せん断補強筋	

2. 溶接金網 (5.2.2)
JIS G 3551のJIS表示認証製品

形状	施工箇所
線径　mm　×　網目　mm	

3. 鉄筋の継手 (5.3.4)

接合方法	径(mm)	施工箇所
・重ね継手	D16以下	
・ガス圧接	D19以上	はり　柱の主筋
・機械式継手		
・溶接継手		

先組工法等の継手位置　・同一箇所　・400mm以上離す

4. 軽量コンクリートかぶり厚さ(5.3.5)

施工箇所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)
	・10mm　・

5. 耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さ (5.3.5)

施工箇所	表5.3.6の値に加える寸法(mm)
外気に接する打放し仕上げ	・10mm　・

6. 圧接完了後の抜取試験 (5.4.9)
試験方法　・超音波探傷試験　・引張り試験

6 コンクリート工事

1. レディーミクスコンクリート (6.2.1)(表6.2.1)
種　別　※Ⅰ類　・Ⅱ類
・建築基準法第37条第二号に規定する大臣認定コンクリート

2. コンクリートの強度 (6.2.2)
普通コンクリート

Fc(N/mm2)	施工箇所
・	
・24	
・21	

軽量コンクリート

Fc(N/mm2)	施工箇所
・	
・24	
・21	

3. スランプ (6.2.4)(表6.2.2)
基礎，基礎梁，土間スラブ　※15cm　※18cm　・
柱，梁，スラブ，壁　※18cm

4. セメントの種類 (6.3.1)
※普通ポルトランドセメント　※混合セメントのA種

5. 骨材の種類 (6.3.1)
アルカリシリカ反応性区分　※A　・B

6. 混和材料 (6.3.1)
混和剤
・AE剤　・AE減水剤　・高性能AE減水剤
混和材
・フライアッシュ（・Ⅰ種　・Ⅱ種　・Ⅳ種）
・高炉スラグ微粉末
・シリカフューム
・膨張材

7. 打継ぎ目地 (6.6.3)
目地寸法　幅　mm　×　深さ　mm

8. 構造体コンクリートの仕上り (6.2.5)(表6.2.4)

種別	施工箇所
・A種	
・B種	
・C種	

9. 型枠 (6.8.3)

せき板の種類	板厚(mm)	施工箇所
・合板（表面加工）	※12　・	
・合板（B－C）	※12　・	
・床型枠用鋼製デッキプレート		
・金属製パネル		

MCR工法用シート　・適用する　・適用しない

10. スリーブの材種

材種	施工箇所
・鋼管	
・硬質ポリ塩化ビニル管	
・溶融亜鉛めっき鋼板	
・つば付き鋼管	
・紙チューブ	

11. 軽量コンクリート (6.10.1)

種類	施工箇所	所要気乾単位容積質量（t／m3）
・1種		
・2種		

スランプ　※21cm　・

12. 寒中コンクリート (6.11.1)
適用期間　・　～

13. 暑中コンクリート (6.12.2)
構造体強度補正値（S）　※　6N/mm2　・

14. マスコンクリート (6.13.2)

セメントの種類	混和剤	スランプ(cm)	適用箇所
・中庸熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・普通ポルトランドセメント	※AE減水剤 ※高性能AE減水剤 ・	※15 ・	

15. 無筋コンクリート (6.14.1)

Fc(N/mm2)	スランプ(cm)	適用箇所
※18N/mm2 ・	※15 ※18	

16. 流動化コンクリート (6.15.1)(6.15.3)

種別	ベースコンクリートのスランプ(cm)	流動化コンクリートのスランプ(cm)	適用箇所
普通コンクリート	・10 ・12 ・15	・18 ・21	

17. 高強度コンクリート

Fc(N/mm2)	スランプフロー(cm)	適用箇所
・45 ・60 ・	・50 ・60 ・	

7 鉄骨工事

1. 鉄骨の製作工場 (7.1.3)
指定性能評価機関の性能評価を受け、国土交通大臣の認定を受けた工場
指定工場　・S　・H　・M　・R　・J

2. 施工管理技術者 (7.1.3)
・適用する　・適用しない

3. 鋼材の種別 (7.2.1)(表7.2.1)

規格番号	種類の記号
JIS G 3101	・SS400　・SS490　・SS540
JIS G 3106	・SM400A B C　・SM490A B C　・
JIS G 3114	・SMA400AW AP BW BP CW CP　・
JIS G 3136	・SN400A B C　・SN490B C
JIS G 3138	・SNR400A B　・SNR490B
JIS G 3350	・SSC400
JIS G 3353	・SWH400
JIS G 3444	・STK400　・STK490
JIS G 3466	・STKR400　・STKR490
JIS G 3475	・STKN400W　・STKN400B　・STKN490B
建築基準法に基づき指定又は認定	

4. 高力ボルト (7.2.2)
・トルシア形高力ボルト
セットの種類　・　2種(S10T)　・
・JIS形高力ボルト
セットの種類　・　2種(S10T)　・
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
セットの種類　・　1種(F8T相当)　・

5. 溶接部の試験 (7.6.11)
完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。

溶接の区分	AOQL(%)	検査水準
工場溶接	・2.5　※4.0	※6　・
現場溶接	・2.5　※4.0	

6. デッキプレート (7.7.8)

種別	溶接方法
・デッキプレート	・アークスポット溶接　・隅肉溶接
・合成スラブ用デッキプレート	・焼き抜き栓溶接　・アークスポット溶接

7. 錆止め塗料の種別 (7.8.3)(7.8.4)
※　公仕仕18.3.1表のA種　・

8. 耐火被覆 (7.9.2)(7.9.4～7)

種別	材料及び工法製造所	備考
・ラス張モルタル	公仕仕15章2節	
・耐火材吹付け	建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたもの	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール
・耐火板張り		
・耐火材巻付け		

9. アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)

種別	施工箇所
・A種	
・B種	
・C種	

10. 柱底均しモルタル (7.2.9)(7.10.3)(表7.10.2)

種別	施工箇所
※A種	
・B種	

厚さ　・　cm

11. 摩擦面の処理 (7.12.4)
・ブラスト処理　・ブラスト処理以外（　）

工事名称	縮尺	図面No
図面名称		2

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成型セメント板工事

1．補強コンクリートブロック造 (8.2.2)

ブロックの種類
※　空洞ブロック　１６　　・

2．コンクリートの調合 (8.2.4)

Ｆｃ　※２１N/mm2　　・

3．コンクリートブロック帳壁及び塀 (8.3.2)(表8.3.1)

ブロックの種類
・空洞ブロック１６（間仕切り壁、地下二重壁、外壁、塀）
・空洞ブロック０８（衛星配管用裏積みブロック）

4．ＡＬＣパネル (8.4.2)(8.4.3～5)

工法	単位荷重 (N/㎡)	厚さ	取付工法種別	施工箇所	耐火性能 (時間)
・外壁パネル工法	・1180 ・1960	・100 ・	・Ａ種 ・Ｂ種		・１
・間仕切壁パネル工法		・100 ・	・Ｃ種　・Ｄ種 ・Ｅ種		・１
・屋根パネル工法	・980	・100 ・150	・F種		・0.5
・床パネル工法	・2350 ・3530	・100 ・150	・F種		・１　・２

目地幅　・

5．押出成形セメント板 (8.5.2～4)(表8.5.1)(表8.5.2)

工法	表面形状	厚さ	取付工法種別	施工箇所	耐火性能
・外壁パネル工法	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	・５０ ・６０	・Ａ種 ・Ｂ種		建築基準法施行令第107条の規定に基づく技術基準
・間仕切壁パネル工法	・フラットパネル ・デザインパネル ・タイルベースパネル	・５０ ・６０	・Ｂ種 ・Ｃ種		

パネル相互の目地幅
長辺　※　８mm以上　　・
短辺　※１５mm以上　　・
出隅及び入隅のパネル接合目地幅　　※１５mm　　・

パネル開口

分類		開口の大きさ	パネル残り部分の幅
パネルの開口	長辺	・　　・図示	・　　・図示
	短辺	・　　・図示	・　　・図示
パネルの切り欠き	長辺	・　　・図示	・　　・図示
	短辺	・　　・図示	・　　・図示

9 防水工事

1．アスファルト防水 (9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3～9)

屋根保護防水工法

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ａ－１		・ＡＩ－１	
・Ａ－２		・ＡＩ－２	
・Ａ－３		・ＡＩ－３	
・Ｂ－１		・ＢＩ－１	
・Ｂ－２		・ＢＩ－２	
・Ｂ－３		・ＢＩ－３	

押さえ金物　※アルミ製Ｌ－30×15×2.0　・
断熱材（屋根保護防水断熱工法の場合）
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ（スキン層付き）
※Ａ種押出法ポリスチレンフォーム保温板３種ｂ(スキンあり)
・
平場の保護コンクリート
こて仕上げの場合　　※８０mm以上　・
床タイル仕上げの場合　　※６０mm以上　・
立上り部の保護
・乾式保護材　・れんが押え　・コンクリート押え
・モルタル押え

屋根露出防水工法

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ｄ－１		・ＤＩ－１	
・Ｄ－２		・ＤＩ－２	
・Ｄ－３			
・Ｄ－４			

押さえ金物　※アルミ製Ｌ－30×15×2.0　・
脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類製造所の仕様
・

断熱材（屋根露出防水断熱工法の場合）
※硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号若しくは２号で透湿係数を除く規格に適合
※Ａ種硬質ウレタンフォーム保温板２種１号若しくは２号で透湿係数を除く規格に適合

屋内防水工法

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ｅ－１		・Ｅ－２	

9 防水工事

2．改質アスファルトシート防水 (9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～3)

屋根露出防水工法

種別	施工箇所
・ＡＳ－Ｔ１（トーチ工法）	
・ＡＳ－Ｔ２（トーチ工法）	
・ＡＳ－Ｔ３（トーチ工法）	
・ＡＳ－Ｔ４（トーチ工法）	
・ＡＳ－Ｊ１（常温粘着工法）	
・ＡＳＩ－Ｔ１（トーチ工法）	

押さえ金物　※アルミ製Ｌ－30×15×2.0　・
脱気装置の種類及び設置数量（絶縁工法の場合）
※アスファルトルーフィング類製造所の仕様
・
断熱材（断熱工法の場合）
※硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号若しくは２号で透湿係数を除く規格に適合
※Ａ種硬質ウレタンフォーム保温板２種１号若しくは２号で透湿係数を除く規格に適合

屋根保護防水工法

種別	施工箇所
・密着工法（トーチ工法）	
・密着断熱工法（トーチ工法）	

押さえ金物　※アルミ製Ｌ－30×15×2.0　・
断熱材
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ（スキン層付き）
※Ａ種押出法ポリスチレンフォーム保温板３種ｂ(スキンあり)
・
平場の保護コンクリート
こて仕上げの場合　　※８０mm以上　・
床タイル仕上げの場合　　※６０mm以上　・
立上り部の保護
※仕上塗料塗り　・乾式保護材　・れんが押え
・コンクリート押え　・モルタル押え

3．合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2)(9.4.3)(表9.4.1)

接着工法		機械的固定工法	
種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ｓ－Ｆ１		・Ｓ－Ｍ１	
・Ｓ－Ｆ２		・Ｓ－Ｍ２	
		・Ｓ－Ｍ３	
・ＳＩ－Ｆ１		・ＳＩ－Ｍ１	
・ＳＩ－Ｆ２		・ＳＩ－Ｍ２	

断熱材
・硬質ウレタンフォーム断熱材２種１号若しくは２号で透湿係数を除く規格に適合
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材（　・１種ｂ　・２種ｂ　・３種ｂ）
・Ａ種硬質ウレタンフォーム保温板２種１号若しくは２号で透湿係数を除く規格に適合
・Ａ種押出法ポリスチレンフォーム保温板
・

屋内保護密着工法

種別	施工箇所
・Ｓ－Ｃ１	

4．塗膜防水 (9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

ウレタンゴム系

種別	施工箇所
・Ｘ－１	・バルコニー　・
・Ｘ－２	・ひさし　・

脱気装置の種類及び設置数量（種別Ｘ－１の場合）
・

ゴムアスファルト系

種別	施工箇所
・Ｙ－１	・地下外壁　・
・Ｙ－２	・屋内（　・便所　・浴室　）

5．ケイ酸質系塗布防水 (9.6.2)(9.6.3)(表9.6.2)

種別	施工箇所
※Ｃ－Ｕ１	
・Ｃ－ＵＰ	

6．防水保証

種別	期間
アスファルト防水	・１０年　・
改質アスファルトシート防水	・１０年　・
合成高分子系ルーフィングシート防水	・１０年　・
塗膜防水	・
ケイ酸質系塗布防水	・

10 石工事

1．石材及び工法 (10.2.1)(表10.1.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

外壁湿式工法

石材の種類	厚さ	品質	施工箇所	仕上の種類

石裏面処理　・適用する　・適用しない
石裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　※流し筋工法　・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー、横筋流し工法

内壁空積工法

石材の種類	厚さ	品質	施工箇所	仕上の種類

下地ごしらえ　※あと施工アンカー、横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

乾式工法

石材の種類	厚さ	品質	施工箇所	仕上の種類

石裏面処理　・適用する　・適用しない
石裏打ち処理　・適用する　・適用しない

床及び階段

石材の種類	厚さ	品質	施工箇所	仕上の種類

石裏面処理　・適用する　・適用しない

特殊部位

石材の種類	厚さ	品質	施工箇所	仕上の種類

石裏面処理　・適用する　・適用しない
石裏打ち処理　・適用する　・適用しない

11 タイル工事

1．陶磁器質タイル (11.2.2)(11.3.2)(11.4.2)

施工箇所	形状寸法 (mm)	うわ薬 無釉	うわ薬 施釉	役物 あり	役物 なし	色 標準	色 注文
		・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・
		・	・	・	・	・	・

耐凍害性　・適用する　・適用しない
耐滑り性　・適用する　・適用しない
試験張り　・行う　・行わない
見本焼き　・行う　・行わない

あと張り工法の下地コンクリート素地面の処理
・行う（下記のいずれかとする）　　・行わない

素地表面処理の工法	施工箇所
・ＭＣＲ工法	
・目荒らし工法（高圧水洗処理）	

ＭＣＲ工法はせき板面にＭＣＲ工法用シート張りとし（6.8.3(e)）による。
目荒しＬ工法の高圧水洗は（15.2.4(c)）による。
ポリマーセメントモルタルの調合は（15.2.3(d)）による。

2．タイル下地コンクリート (11.2.7)(11.3.7)

3．セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り (11.2.7)(表11.2.3)

タイルの種類	工法	施工箇所
内装タイル	・改良積上げ張り	
	・密着張り	
外装タイル	・改良積上げ張り	
	・改良圧着張り	
内装タイル以外のユニットタイル	・マスク張り	
	・モザイクタイル張り	

4．接着剤による陶磁器質タイル張り (11.3.7)(表11.3.2)

タイルの種類	工法	施工箇所
内装タイル	・内装壁タイル接着張り	
外装タイル	・外装壁タイル接着張り	
内装タイル以外のユニットタイル	・外装壁タイル接着張り	

5．陶磁器質タイル型枠先付け (11.4.2)(表11.4.1)

せき板の種類　※金属製タイル先付け用パネル　・

種類	施工箇所
・タイルシート法	
・目地桝法	
・桟木法	

6．伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.1.3)

※(表11.1.1)による　　・図示

7．接着力試験 (11.1.5)

・行う　　・行わない

12 木工事

1．表面仕上げ (12.1.4)

種別	施工箇所
・Ａ種	
・Ｂ種	
・Ｃ種	

2．製材 (12.2.1)

「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

樹種	寸法	等級	形状	含水率	施工箇所
		・１級　※２級		※Ａ種 ・Ｂ種	

「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

樹種	寸法	等級	形状	含水率	施工箇所
		・上小節 ・小節		※Ａ種 ・Ｂ種	

「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

樹種	寸法	等級	形状	含水率	施工箇所
		・特等　※１等 ・２等		・Ａ種　・Ｂ種 ※１０％以下	

「製材の日本農林規格」以外の製材

樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	施工箇所
		造作材の場合 ※Ａ種　・Ｂ種	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※Ａ種 ・Ｂ種	

3．造作用集成材 (12.2.1)

「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

樹種	寸法	見付け材面の等級	施工箇所
		※１等　・２等	

「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

樹種	寸法	見付け材面の等級	施工箇所
		※１等　・２等	

「集成材の日本農林規格」による構造用集成柱

樹種	寸法	見付け材面の等級	施工箇所
		・１等　・２等	

「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

樹種	寸法	見付け材面の等級	含水率	施工箇所
			※Ａ種　・Ｂ種	

「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

樹種	寸法	見付け材面の等級	化粧薄板の厚さ	含水率	施工箇所
				※Ａ種　・Ｂ種	

「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

樹　種	寸　法	見付け材面の等級	化粧薄板の厚さ	含水率	施工箇所
				※Ａ種　・Ｂ種	

4．造作用単板積層材 (12.2.1)

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

厚さ	表面の品質	防虫処理	施工箇所
		・適用する　・適用しない	

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

厚さ	表面の品質	防虫処理	含水率	施工箇所
		・適用する　・適用しない	※１４％以下　・	

5．床張り用合板等 (12.2.1)

普通合板

厚さ	樹種	接着の程度	板面の品質	防虫処理	施工箇所
※5.5mm以上 ・		※１類 ・２類	※広葉樹２等以上 ※針葉樹Ｃ－Ｄ以上	・適用する ・適用しない	

構造用合板

等級	樹種	接着の程度	板面の品質	厚さ	防虫処理	施工箇所
※１級 ※２級		※特類 ※１類	※Ｃ－Ｄ以上 ・	※１２mm ・	・適用する ・適用しない	

屋内の常時湿潤状態となる場所の接着の程度は特類とする。

パーティクルボード

曲げ区分	耐水性区分	表面及び裏面の状態	厚さ	施工箇所
※１８ﾀｲﾌﾟ ※３０－１５ﾀｲﾌﾟ	※耐水１（Ｍﾀｲﾌﾟ） ※耐水２（Ｐﾀｲﾌﾟ）	※ＲＳ（研磨板）	・	

構造用パネル

等級	厚さ	施工箇所

工事名称	縮尺	図面 No
図面名称		3

12 木工事

5．防腐・防蟻・防虫処理 (12.3.1)

薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

施工箇所	保存処理性能区分
	・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４
	・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４

薬剤の加圧注入処理を行ったのち、現場における加工、切断、孔あけ等を行った箇所は、現場にて薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理を行う。

薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

施工箇所	処理方法
	※公住仕12.3.1(3)による。
	・

防虫処理

施工箇所	保存処理性能区分
	・Ｋ１　・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４
	・Ｋ１　・Ｋ２　・Ｋ３　・Ｋ４

6．内部間仕切軸組及び床組 (12.4.1)

施工箇所	樹種
間仕切軸組	※杉　※松　・
床組	※杉　※松　・

7．窓、出入口その他の木材 (12.5.1)

施工箇所	樹種
吊元枠、水掛りの下枠、敷居	※ひのき　・
上記以外	※杉　※松　・

8．床板 (12.6.1)

施工箇所	樹種
縁甲板、上がりがまち	※ひのき　・

9．壁及び天井下地 (12.7.1)

施工箇所	樹種
壁下地、天井下地	※杉　※松　・

13 屋根及びといい工事

1．長尺金属板葺 (13.2.2)(表13.2.1)

材種	規格	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性
・カラー亜鉛鉄板（・片面塗装　・両面塗装）	JIS G 3312		
・ガルバリウム鋼板（・無塗装　）	JIS G 3321		
・カラーガルバリウム鋼板（・カラー　）	JIS G 3322		
・			

材種	めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	屋根葺工法
・カラー亜鉛鉄板（・片面塗装　・両面塗装）		・	※瓦棒葺（心木なし）	
・ガルバリウム鋼板（・無塗装　）		・	・	
・カラーガルバリウム鋼板（・カラー　）		・	・	
・		・	・	

2．折板葺 (13.3.2)

材種	規格	形式	山高及びピッチの区分	耐力による区分
・カラー亜鉛鉄板（屋根用規格品）	JIS G 3312	※重ね型	・0920	・
・カラーガルバリウム鋼板（屋根用規格品）	JIS G 3322	※はぜ締め形	・1525	
・ポリ塩化ビニル被覆（SGのA種規格品）	JIS K 6744	・かん合形	・1730	
・		・	・	

材種	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	断熱材の適用	断熱材の種別	防火性能
・カラー亜鉛鉄板（屋根用規格品）	・鋼板製	・	・有	・有（　mm）	・	・有（30分）
・カラーガルバリウム鋼板（屋根用規格品）	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金版製		・無	・無		・無
・ポリ塩化ビニル被覆（SGのA種規格品）						
・						

3．粘土瓦葺 (13.4.2)

粘土瓦

種類	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦の使用
				・有　・無

瓦桟木及び桟木取付け用部材

種類	材質	寸法（mm）	防腐処理
瓦桟木	※杉　※ひのき　・	※幅21×高さ15以上　・	※有　・無
棟補強用心材	※杉　※ひのき　・	※幅40×高さ30以上　・	※有　・無

4．といい (13.5.2)(13.5.3)(表13.5.1)(表13.5.3)(表13.5.4)

工　法

桟木の留付け工法	棟の工法
・	・７寸丸伏せ棟又はＦ型用冠瓦伏せ棟 ・のし一体棟　・のし積み棟

といの材質

材種	防露
・配管用鋼管（ＳＧＰ）	・適用する　・適用しない
・硬質塩化ビニル管（ＶＰ）	・適用する　・適用しない
・	・適用する　・適用しない

鋼管製といの防露巻き工法
・　適用する　・　適用しない

5．ルーフドレン (表13.5.2)

施工箇所	材質	形状
屋　根	※鋳鉄製	・縦型　・横型
バルコニー	※鋳鉄製	・丸型　・角型
バルコニー（中継）	※鋳鉄製	・丸型　・角型

バルコニー中継ドレンの水はね防止　・有　・無

14 金属工事

1．あと施工アンカー (14.1.3)

引抜き耐力の確認試験	設計用引張強度
・行う　・行わない	

2．ステンレス表面処理 (14.2.1)

種類	施工箇所
※ＨＬ仕上げ	・図示　・
・ＮＯ．２Ｂ仕上げ	・図示　・
・鏡面仕上げ	・図示　・

3．アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2)(表14.2.1)

種別	塗膜又は複合皮膜の種類	施工箇所	色合い
・Ａ－１種	※ＡＡ１５　・	・図示　・	・シルバー
・Ａ－２種	※ＡＡ１５　・	・図示　・	・ブロンズ
・Ｂ－１種	※Ｂ　・	・図示　・	・ブラウン
・Ｂ－２種	※Ｂ　・	・図示　・	・ブラック
・Ｃ－１種	※ＡＡ６　・	・図示　・	・ｽﾃﾝﾚｽｶﾗｰ
・Ｃ－２種	※ＡＡ６　・	・図示　・	・
・Ｄ種		・図示　・	

陽極酸化被膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

4．鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.3)(表14.2.2)

種別	表面処理方法	施工箇所
・Ａ種	溶融亜鉛めっき	
・Ｂ種	溶融亜鉛めっき	
・Ｃ種	溶融亜鉛めっき	
・Ｄ種	電気亜鉛めっき	
・Ｅ種	電気亜鉛めっき	
・Ｆ種	電気亜鉛めっき	

5．軽量鉄骨天井下地 (14.4.2)(表14.4.1)

野縁等の種類

部位	種類	
屋　内	※１９形	・２５形
屋　外	・１９形	※２５形

形状及び寸法

部位	野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔	周辺部の端からの寸法	野縁の間隔
屋外	・	・	・
屋内	公住仕表14.4.2による	公住仕表14.4.2による	公住仕表14.4.2による

開口部の補強
野縁又は野縁受けが切断された場合　・
吊りボルトの間隔が900mmを超える場合　・

天井のふところが大きい場合の補強

	ふところが1.5m以上の場合	ふところが3mを超える場合
水平補強	※縦横方向に間隔1.8m程度	・
斜め補強	※縦横方向に間隔3.6m程度	・

耐震性を考慮した補強方法　・
屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強
・

6．軽量鉄骨壁下地 (14.5.3)(表14.5.1)

スタッド、ランナー等の種類

種類	施工箇所
・５０形	
・６５形	
・９０形	
・１００形	
・	

7．金属成形板張り (14.6.2)(14.6.3)

種別	表面処理	取付用下地	伸縮調整継手
・	・	※公住仕14.4による　・	・設ける　・設けない

8．アルミニウム製笠木 (14.7.2)(表14.7.1)

構成部材による種類　・２５０形　・３００形　・３５０形
表面処理　・

14 金属工事

9．手すり及びタラップ (14.8.2)(14.8.3)

	材料の種別	表面処理の種別
手すり	・ステンレス	・ＨＬ程度　・NO.2B程度　・
	・鋼製	・
タラップ	・ステンレス	・ＨＬ程度　・NO.2B程度　・
	・鋼製	・溶融亜鉛めっき　Ｃ　種　・

15 左官工事

1．せき板取外し後の補修

補修材料
※初期補修用プレミックスポリマーセメントペースト（メンテペースト）
※初期補修用プレミックスポリマーセメントモルタル（メンテモルタル）
・その他（　）

メンテモルタル及びメンテペーストの品質及び性能
・機材の品質・性能基準　・その他（　）

2．モルタル塗り (15.2.2)

既製目地材
・設ける　（・図示による。　・　）
・設けない

3．床コンクリート直均し (15.3.1)

種別	施工箇所
直均し仕上げ	・ ・

4．セルフレベリング材 (15.4.2)

種別
・　石こう系
・　セメント系

5．仕上げ塗材仕上げ (15.5.2)(表15.5.1～2)

※防火材料の指定がある場合は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。

種類	呼び名	仕上げの形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁上　・ゆず肌状　・さざ波状
	・可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・砂壁上　・ゆず肌状　・さざ波状
	・外装薄塗材Ｅ	・砂壁状　・ゆず肌状　・平たん状 ・凹凸状　・着色骨材砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Ｅ	・砂壁上　・ゆず肌状　・さざ波状 ・凹凸状
	・防水形外装薄塗材Ｅ	・ゆず肌状　・さざ波状　・凹凸状
	・外装薄塗材Ｓ	・砂壁状
	・内装薄塗材Ｃ	・凹凸状　・平たん状　・ゆず肌状 ・さざ波状
	・内装薄塗材Ｌ	・凹凸状　・平たん状　・ゆず肌状 ・さざ波状
	・内装薄塗材Ｓｉ	・砂壁状じゅらく　・ゆず肌状 ・平たん状　・凹凸状　・さざ波状
	・内装薄塗材Ｅ	・砂壁状じゅらく　・ゆず肌状 ・平たん状　・凹凸状　・さざ波状
	・内装薄塗材Ｗ	・京壁状じゅらく　・ゆず肌状 ・平たん状　・凹凸状
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材Ｃ	・吹放し　・凸部処理　・平たん状 ・凹凸状　・ひき起こし ・かき落とし
	・外装厚塗材Ｓｉ	・吹放し　・凸部処理　・平たん状 ・凹凸状　・ひき起こし
	・外装厚塗材Ｅ	・吹放し　・凸部処理　・平たん状 ・凹凸状　・ひき起こし
	・内装厚塗材Ｃ	・吹放し　・凸部処理　・平たん状 ・凹凸状　・ひき起こし ・かき落とし
	・内装厚塗材Ｌ	・平たん状　・凹凸状 ・ひき起こし　・かき落とし
	・内装厚塗材Ｇ	・平たん状　・凹凸状 ・ひき起こし　・かき落とし
	・内装厚塗材Ｓｉ	・吹放し　・凸部処理　・平たん状 ・凹凸状　・ひき起こし
	・内装厚塗材Ｅ	・吹放し　・凸部処理　・平たん状 ・凹凸状　・ひき起こし
・複層仕上塗材	・複層塗材ＣＥ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・複層塗材Ｓｉ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・複層塗材Ｅ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・複層塗材ＲＥ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・可とう形複層塗材ＣＥ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・防水形複層塗材ＣＥ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・防水形複層塗材Ｅ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・防水形複層塗材ＲＥ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
	・防水形複層塗材ＲＳ	・凸部処理　・凹凸状　・ゆず肌状
・軽量骨材仕上塗材	・吹付用軽量塗材	・砂壁状
	・こて塗用軽量塗材	・平たん状

複層仕上塗材の耐候性　・１種　・２種　※３種
ＡＬＣパネルの内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き　・
所要量等の確認　※表15.5.4による　・

6．マスチック塗材塗り (15.6.2)

※防火材料の指定がある場合は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。

マスチック塗材の品質及び性能
・機材の品質・性能基準　・その他（　）

種別　・Ａ種　・Ｂ種

16 建具工事

1．一般事項 (16.1.3)

防火戸の指定　・適用する　・適用しない

防火戸との連動
・適用する（建具表及び図示による）
（　・自動閉鎖機構　・ヒューズ装置　・熱感知器　・煙感知器　）
・適用しない

(16.1.4) 建具見本の製作　・行う　・行わない
特殊な建具の仮組　・行う　・行わない

(16.1.6) 防犯建具部品　・適用する　・適用しない

2．アルミニウム製建具 (16.2.2)(16.2.4)

アルミサッシの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　）

外部に面する建具性能等級等

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・Ａ種	Ｓ－４	Ａ－３	Ｗ－４	・７０　・１００
・Ｂ種	Ｓ－５			
・Ｃ種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	１００

防音ドアセット、防音サッシ

種別	遮音性
防音ドアセット	・適用する（等級　・T-1　・T-2）　・適用しない
防音サッシ	・適用する（等級　・T-1　・T-2）　・適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

種別	断熱性
断熱ドアセット	・適用する（等級　・H-1　・H-2　・H-3）　・適用しない
断熱サッシ	・適用する（等級　・H-1　・H-2　・H-3）　・適用しない

耐震ドアセット、耐震サッシ

種別	面内変形追随性
耐震ドアセット	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない
耐震サッシ	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない

(16.2.3) 網戸等
防虫網
※合成樹脂製　・ガラス繊維入り合成樹脂　・ステンレス製
（合成樹脂の線径は0.25mm以上、網目は16～18メッシュ）

3．樹脂製建具 (16.3.2)

外部に面する建具性能等級等

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み寸法(mm)
・Ａ種	Ｓ－４	Ａ－４	Ｗ－４	※建具表による
・Ｂ種	Ｓ－５		Ｗ－５	
・Ｃ種	Ｓ－６			

防音ドアセット、防音サッシ

種別	遮音性
防音ドアセット	・適用する（等級　・T-A　・T-B）　・適用しない
防音サッシ	・適用する（等級　・T-A　・T-B）　・適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

種別	断熱性
断熱ドアセット	・適用する（等級　・H-A　・H-B　・H-C）　・適用しない
断熱サッシ	・適用する（等級　・H-A　・H-B　・H-C）　・適用しない

(16.3.3) ガラス　※複層ガラス　・単板ガラス　・三重ガラス

(16.3.4) 表面色
・標準色（ホワイト）　・特注色（・ブラック　・ブロンズ　・シルバー）

4．鋼製建具 (16.4.2)

玄関ドアの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　）
パイプシャフトドアの品質及び性能
・機材の品質・性能基準　・その他（　）

簡易気密型ドアセット

種別	気密性	水密性
簡易気密型ドアセット	・適用する（等級　A-3） ・適用しない	・適用する（等級　W-1） ・適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

種別	耐風圧性
・Ａ種	Ｓ－４
・Ｂ種	Ｓ－５
・Ｃ種	Ｓ－６

防音ドアセット、防音サッシ

種別	遮音性
防音ドアセット	・適用する（等級　・T-1　・T-2）　・適用しない
防音サッシ	・適用する（等級　・T-1　・T-2）　・適用しない

断熱ドアセット、断熱サッシ

種別	断熱性
断熱ドアセット	・適用する（等級　・H-1　・H-2　・H-3）　・適用しない
断熱サッシ	・適用する（等級　・H-1　・H-2　・H-3）　・適用しない

耐震ドアセット、耐震サッシ

種別	面内変形追随性
耐震ドアセット	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない
耐震サッシ	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない

(16.4.3) 鋼板類

種別	めっき付着量
・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）	※Ｚ１２　※Ｆ１２ ・
・JIS G 3317（溶融亜鉛-5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっき鋼板及び鋼帯）	※ＹＯ８　・

				工事名称	縮尺	図面 No
				図面名称		4

16 建具工事

5．鋼製軽量建具 (16.5.2)

クロゼットドア　機材の品質・性能基準　※適用する　・適用しない

簡易気密型ドアセット

種別	気密性
簡易気密型ドアセット	・適用する（等級　A-3）　・適用しない

防音ドアセット，防音サッシ

種別	遮音性
防音ドアセット	・適用する（等級　・T-1　・T-2　・T-3）　・適用しない
防音サッシ	・適用する（等級　・T-1　・T-2　・T-3）　・適用しない

断熱ドアセット，断熱サッシ

種別	断熱性
断熱ドアセット	・適用する（等級　・H-1　・H-2）　・適用しない
断熱サッシ	・適用する（等級　・H-1　・H-2）　・適用しない

耐震ドアセット，耐震サッシ

種別	面内変形追随性
耐震ドアセット	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない
耐震サッシ	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない

鋼板類 (16.5.3)

	種別	めっき付着量
・ビニル被覆鋼板	JIS K 6744 (ポリ塩化ビニル被覆金属板及び金属帯) 下地金属板の種類はＳＧ又はＳＥ	・Ｚ０６　・Ｆ０６ ・Ｅ２４
・カラー鋼板	JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) 又は下地金属板の種類をJIS G 3302 又はJIS G 3313としたもの	・Ｚ０６　・Ｆ０６ ・Ｅ２４

7．ステンレス製建具 (16.6.2)

簡易気密型ドアセット

種別	気密性	水密性
簡易気密型ドアセット	・適用する（等級　A-3） ・適用しない	・適用する（等級　W-1） ・適用しない

外部に面する建具の耐風圧性

種別	耐風圧性
・A種	Ｓ－４
・B種	Ｓ－５
・C種	Ｓ－６

防音ドアセット，防音サッシ

種別	遮音性
防音ドアセット	・適用する（等級　・T-1　・T-2　・T-3）　・適用しない
防音サッシ	・適用する（等級　・T-1　・T-2　・T-3）　・適用しない

断熱ドアセット，断熱サッシ

種別	断熱性
断熱ドアセット	・適用する（等級　・H-1　・H-2）　・適用しない
断熱サッシ	・適用する（等級　・H-1　・H-2）　・適用しない

耐震ドアセット，耐震サッシ

種別	面内変形追随性
耐震ドアセット	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない
耐震サッシ	・適用する（等級　・D-1　・D-2）　・適用しない

(16.6.3)　ステンレス鋼板　JIS G 4305（冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯）
・SUS304　・SUS430J1L　・SUS443J1　・SUS430(屋外は適用外)

(16.6.4)　表面仕上げ　※ＨＬ　・

(16.6.5)　鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・かど出し曲げ

8．木製建具 (16.7.2)

内装ドアの品質及び性能
・機材の品質・性能基準　・その他（　　）
量産ふすまの品質及び性能
・機材の品質・性能基準　・その他（　　）

建具材の加工、組立時の含水率　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種

フラッシュ戸

表面材の合板の種類	表面板の厚さ(mm)	枠材料	くつづり材料
・普通合板	・	・	・
・天然木化粧合板	・	・	・
・特殊加工化粧合板	・	・	・

表面材合板の接着の程度は、水掛り箇所を１類、その他を２類以上とする

かまち戸

かまちの樹種	鏡板の樹種	見込み寸法(mm)	くつづり材料
・	・	※３６　・	・
・	・	※３６　・	・

ふすま

工法	上張りの種別
・Ⅰ型　・Ⅱ型	・鳥の子　・新鳥の子　・ビニル紙

9．建具用金物 (16.8.2)(表16.8.1)

各住戸玄関扉用及び勝手口扉用錠前の品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　　）
各住戸玄関扉用及び内装扉用ドアクローザの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　　）

金物の種類及び見え掛り部の材質　・建具表による。

(16.8.3)　握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセント等の位置　・建具表による。

16 建具工事

(16.8.4)　各住戸玄関扉用及び勝手口扉の鍵
錠前の種別　※サムターン付きシリンダー面付箱錠
・サムターン付きシリンダー彫込箱錠
タンブラー類の本数　※６本　・
鍵の本数（扉１箇所につき）　※３本　・
コンストラクションキー装置　・適用する　・適用しない
引違い戸、引違い窓の鍵
締り金物（クレセント等）が鍵付きの場合の鍵違い種類　※６本　・
上記の鍵本数（１住戸につき）　※３本　・

10．自動ドア開閉装置 (16.9.2)

性能　・スライディングドア（表16.9.1による。）
・スイングドア（表16.9.2による。）
開閉方法　・
センサーの種類　・
凍結防止装置　・

11．自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3)

性能　・表16.10.1による。

12．重量シャッター (16.11.2)

形状及び機構

種類	耐風圧強度	開閉機能	ｼｬｯﾀｰｹｰｽ
・管理用シャッター	・	※上部電動式（手動併用） ・上部電動式	・有　・無
・外壁用防火シャッター	・		※有
・屋内用防火シャッター			※有
・防煙シャッター			※有

(16.11.3)　スラット及びシャッターケース用鋼板
種類
・溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
・塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)
めっきの付着量　※Ｚ１２　※Ｆ１２　・

13．軽量シャッター (16.12.2)(16.12.3)

開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）
耐風圧強度　・　N/m2

スラットの材質
・塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)
（めっき付着量　※Ｚ０６又はＦ０６　・　）
・塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)
（めっき付着量　※ＡＺ９０　・　）

(16.12.4)　スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

14．オーバーヘッドドア (16.13.2)

材料区分	耐風圧性能	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・　５０ ・　７５ ・１００ ・１２５ (JIS A4715による強さの区分)	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛メッキ鋼板 ・ステンレス鋼板

15．ガラス (16.14.2)

種別	厚さ等(mm)	その他
・ﾌﾛｰﾄ板ｶﾞﾗｽ	・建具表による	
・型板ｶﾞﾗｽ	・建具表による	
・網入り板ｶﾞﾗｽ	・建具表による	
・線入り板ｶﾞﾗｽ	・建具表による	
・合わせｶﾞﾗｽ	・建具表による	特性　・Ⅰ類　・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類
・強化ｶﾞﾗｽ	・建具表による	特性　・Ⅰ類　・Ⅲ類
・熱線吸収板ｶﾞﾗｽ	・建具表による	性能　・１類　・２類
・複層ｶﾞﾗｽ	・建具表による	性能　・１種　・２種　・３種　・４種　・５種
・熱線反射ｶﾞﾗｽ	・建具表による	日射熱遮熱性　・１種　・２種　・３種 耐久性　・Ａ類　・Ｂ類
・倍強度ｶﾞﾗｽ	・建具表による	

(16.14.4)　熱線反射ガラスの映像調整　・行う　・行わない

(16.14.2)(16.14.3)　ガラス留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	溝の大きさ
アルミニウム製	・シーリング ・グレイジングガスケット	・表16.14.1による ・図示による
鋼製及び軽量鋼製	・シーリング	
ステンレス製	・シーリング	

16．ガラスブロック (16.14.5)

材料

表面形状	呼び寸法（長さ×高さ）		厚さによる区分	
正方形	・１２５×１２５ ・２００×２００	・１６０×１６０ ・３２０×３２０	・８０ ・１２５	・９５
長方形	・２５０×１２０	・３２０×１６０	・８０	・９５

壁用金属枠及び補強材　・設ける　・設けない
力骨の材質、寸法、形状
※ステンレス鋼（SUS304）、径5.5mm、はしご形状複筋及び単筋
・
化粧目地モルタル
※製造所の指定による（色　・　）
シーリング　・
金属製化粧カバー
材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　・
形状　・

工法

目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)
※８以上１５以下 ・	※外側１５以下、内側６以上 ・	※６m以下ごとに幅１０～２５ ・

曲面積みにおいては、曲率半径をガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする
目地部の力骨の補強方法　※ガラスブロック製造所の仕様とする

17 カーテンウォール工事

1．カーテンウォールの種別 (17.1.1)

カーテンウォール種別
・メタルカーテンウォール
・ＰＣカーテンウォール

2．カーテンウォールの性能等 (17.1.3)

項目	性能値
耐風圧性	・
耐震性	・
水密性	・
気密性	・
耐火性	・
耐温度差性	・
遮音性	・
断熱性	・

性能の確認方法及び判定方法　・

3．メタルカーテンウォール (17.2.2)

材料

種別		適用		
金属材料		※アルミニウム製　・		
カーテンウォールのシーリング		・		
ガラス取付材料	シーリング	・		
	構造ガスケット	・適用する　・適用しない		
	断熱材	種類	・	厚さ　・
摩擦低減材		※製造所の仕様による		
取付け用金物		※製造所の仕様による		

(17.2.3)　形状及び仕上げ

項目	適用
製品の寸法許容差	※表17.2.1による　・
見え掛り部の仕上げ	表面処理　・
ガラス溝の寸法、形状	※製作所の仕様による　・

(17.2.5)　取付け

項目	適用
躯体付け金物の取付け寸法位置の許容差	※表17.2.2による　・
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ部材の取付け位置の寸法許容差	※表17.2.3による　・

(17.2.6)　ガラスの取付け
※構造ガスケットを用いる場合　・
（※上記以外は１６章１４節による）

4．ＰＣカーテンウォール (17.3.2)

材料

種別	適用		
コンクリート	種類	※軽量コンクリート１種	
	設計基準強度	※３０N/mm2	
	スランプ	※１２cm以下　・	
	気乾単位容積質量	※１．９t/m3	
	単位水量	※１８０kg/m3	
鉄筋	※ＳＤ２９５Ａ　・		
補強鉄線	※普通鉄線又は溶接金網	寸法	※３．２mm以上　・
シーリング	・		
耐火目地	・		
断熱材	・		
ガラス	・		
ガラス取付け材料	・		
摩擦低減材	・		
取付け用金物	・		
先付け材料	・		

(17.3.3)　形状及び仕上げ

項目	適用
製品の寸法許容差	※表17.3.1による　・
仕上げ	・磁器質タイル　・石材（・花こう岩　・大理石）
ガラス溝の寸法、形状	※製作所の仕様による　・

(17.3.4)　製作
配筋　※図示による

(17.3.5)　取付け
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差　※表17.3.2による
※表17.3.2による　・

(17.3.6)　ガラスの取付け
※構造ガスケットを用いる場合　・
（※上記以外は１６章１４節による）

18 塗装工事

1．材料 (18.1.3)

※防火材料の指定がある場合は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

2．素地ごしらえ (18.2.2～7)

下地面		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※Ａ種　・
	透明塗料塗りの場合	・Ａ種　※Ｂ種
鉄鋼面		・Ａ種　・Ｂ種　※Ｃ種
亜鉛めっき鋼面		・Ａ種　・Ｂ種
モルタル面及びプラスター面		・Ａ種　※Ｂ種
ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ALCﾊﾟﾈﾙ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面		・Ａ種　※Ｂ種
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面及び	継目処理工法	※Ａ種　・Ｂ種
その他のﾎﾞｰﾄﾞ面	継目処理工法以外	・Ａ種　※Ｂ種

3．錆止め塗料塗り (18.3.2)

下地面	種別
鉄鋼面	※Ａ種 つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)の場合のみ　※Ｃ種
亜鉛めっき鋼面	※Ａ種　・Ｂ種 つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)の場合のみ　※Ｃ種

4．合成調合樹脂ペイント塗り（ＳＯＰ） (18.4.2)(18.4.3～5)

塗料の種別　※１種　・２種
木部(多孔質広葉樹除く)　※Ａ種（屋外）　※Ｂ種（屋内）
鉄鋼面　・Ａ種　※Ｂ種

5．クリアラッカー塗り（ＣＬ） (18.5.2)

木部　・Ａ種　※Ｂ種

6．アクリル樹脂非分散系塗料塗り(屋内)（ＮＡＤ） (18.6.2)

屋内のコンクリート面、モルタル面　・Ａ種　※Ｂ種

7．耐候性塗料塗り(屋外)（ＤＰ） (18.7.2～4)(表18.7.1～3)

上塗りの塗料等級
鉄鋼面　・１級　・２級　・３級
亜鉛めっき鋼面　・１級　・２級　・３級
コンクリート面及び押出成形セメント板面の種別
・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種

8．つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ） (18.8.2～4)

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他ボード面
・Ａ種　※Ｂ種
屋内の鉄鋼面　・Ａ種　※Ｂ種

9．合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ） (18.9.2)

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他ボード面
・Ａ種　※Ｂ種

10．合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ） (18.10.2)

コンクリート・モルタル・プラスター・石こうボード・その他ボード面
・Ａ種　※Ｂ種

11．ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ） (18.11.2)

木部　・Ａ種　※Ｂ種

12．ラッカーエナメル塗り（ＬＥ） (18.12.2)

木部　・Ａ種　※Ｂ種

13．木材保護塗料塗り（ＷＰ） (18.14.2)

木部　・Ａ種　※Ｂ種

				工事名称	縮尺	図面 No
				図面名称		5

19 内装工事

1．水掛りの範囲 (19.1.3)

室名	部位	
※便　所	※床　※壁	・天井
※洗面脱衣室	※床　※壁	・天井
※洗濯機置き場	※床　※壁	・天井
※図19.1.1に示す範囲	※床　※壁	・天井
・玄　関	・床　・壁	・天井

2．ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ ｺﾞﾑ床ﾀｲﾙ (19.2.2) (19.2.3)

ビニル床シート

分類	記号	色柄	厚さ(mm)	特殊機能	工法
※発泡層のないもの	※ＦＳ ・ＴＳ	・無地 ・マーブル柄	※2.0 ・2.5	・帯電防止 ・耐動荷重	・熱溶接 ・突付け
・発泡層のあるもの	・ＨＳ ・ＫＳ	・無地 ・柄物	・	・防滑性	・熱溶接 ・突付け

ビニル床タイル

種類	記号	寸法(mm)	厚さ(mm)	特殊機能
・コンポジションビニル床タイル	・ＫＴ	・300×300 ・450×450	※2.0 ・	・帯電防止 ・視覚障碍者用 ・耐動荷重
・ホモジニアスビニル床タイル	・ＦＴ	・300×300 ・450×450	・	

ビニル幅木

材種	厚さ(mm)	高さ(mm)
・軟質 ・硬質	※1.5 ・	※60 ・

ゴム床タイル

主成分	種類	厚さ(mm)
・天然ゴム ・合成ゴム	・	・

接着剤　※種別は、表19.2.2による施工箇所に応じたものとする

3．カーペット敷き (19.3.3) (19.3.4)

・織じゅうたん

種別	織り方	パイル形状	帯電性
・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル	・適用する ・適用しない

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法
・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル	・ ・ ・	・グリッパー工法 ・全面接着工法

・ニードルパンチカーペット
厚さ　・　mm

・タイルカーペット

パイル形状	種類	寸法(mm)	総厚さ	敷き方 平場	敷き方 階段
※ループパイル	※第一種 ・第二種	※５００角 ・	※６．５ ・		
・カットパイル	・第一種 ・第二種	※５００角 ・	※６．５ ・	※市松 ・模様流し	・市松 ※模様流し
・カット/ループパイル	・第一種 ・第二種	※５００角 ・	※６．５ ・	※市松 ・模様流し	・市松 ※模様流し

・下敷き材
※第２種２号（呼び厚さ８mm）　・

4．合成樹脂塗床 (19.4.2) (19.4.3)

・厚膜型塗床材

種類	工法	仕上げの種類
・弾性ウレタン樹脂系塗床材		※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂系塗床材	・薄膜流し展べ工法	・平滑仕上げ　・防滑仕上げ
	・厚膜流し展べ工法	・平滑仕上げ　・防滑仕上げ
	・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ　・防滑仕上げ

・薄膜型塗床材　※平滑仕上げ

5．フローリング張り (19.5.2～5)

・単層フローリング

種別	工法		樹種	板厚(mm)	板幅(mm)	板長さ(mm)
・フローリングボード	・釘止め工法	・根太張り	※なら ・	※15	※75	※500 ・
		・直張り	※なら ・	※12 ・	※75	※300 ・
	・接着工法		※なら ・	※ 8 ・12	※75以上	※900 ・
・フローリングブロック	・		※なら ・	・	・	・
・モザイクパーケット	・		・	・	・	・

・複合フローリング

種類	種別	工法			樹種
※天然木化粧複合フローリング	・Ａ種 ・Ｂ種 ・Ｃ種 ※Ｄ種	・釘留め工法	・根太張り ・直張り ・発泡プラスチック系床下地張り ・乾式遮音二重床下地張り		※なら ・
		・接着工法			※なら ・
・特殊加工化粧複合フローリング	・	・釘留め工法	・発泡プラスチック系床下地張り		
			・乾式遮音二重床下地張り		

19 内装工事

6．畳敷き (19.6.2)

種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種
（Ｄ種の場合の畳床（・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）

7．せっこうボードその他ボード張り (19.7.2)

※天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

せっこうボードその他ボード類

規格番号	種類	記号	厚さ(mm)、規格等
JIS A 5404	・硬質木毛セメント板	ＨＷ	・15　・20　・25　・
	・中質木毛セメント板	ＭＷ	・15　・20　・25　・
	・普通木毛セメント板	ＮＷ	・15　・20　・25　・
	・硬質木片セメント板	ＨＦ	・12　・15　・18　・
	・普通木片セメント板	ＮＦ	・30　・
JIS A 5430	・けい酸カルシウム板（タイプ２）	0.8FK 1.0FK	・６　・８
JIS A 5905	・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	ＩＢ	・９　・12　・15
	・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	ＭＤＦ	・７　・９　・12
	・ハードボード	ＨＢ	・3.5　・５　・７
JIS A 5908	・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	ＶＳ	・12　・15　・18　・
	・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	ＤＶ	・10　・12　・
JIS A 6301	・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ	GW-B	・32K　・
JIS A 6901	・せっこうボード	GB-R	・9.5　・12.5
	・シージングせっこうボード	GB-S	・9.5　・12.5
	・強化せっこうボード	GB-F	・12.5　・15
	・化粧せっこうボード	GB-D	・9.5　・12.5

普通合板において、屋内の湿潤状態となる場所に使用する場合は接着の程度を１類とする

軽量鉄骨下地ボード遮音壁に用いる遮音シール材
・アクリル系シーリング材　・ウレタン系シーリング材
・ジョイントコンパウンド

(19.7.3) せっこうボードの目地工法
・継目処理工法　・突付け工法　・目透し工法

(19.7.2) 合板類

種類	表板の樹種名	板面の品質	厚さ(mm)	接着	防虫処理
・普通合板	・生地のまま ・透明塗料塗りの場合ラワン程度 ・不透明塗料の場合しな程度		・	・１類 ・２類	・行う ・行わない

種類	化粧板の樹種名	厚さ(mm)	接着	防虫処理
・天然木化粧合板	・	・	・１類 ・２類	・行う ・行わない

種類	化粧加工の方法	表面性能	厚さ(mm)	接着	防虫処理
・特殊加工化粧合板	・オーバーレイ ・プリント　・塗装		・	・１類 ・２類	・行う ・行わない

(19.7.3) 合板類の張付け工法　・Ａ種　※Ｂ種

8．壁紙張り (19.8.2)

※天井及び壁に使用する材料は、建築基準法に基づく防火材料の指定又は認定を受けたものとする。

壁紙

施工箇所	種類	防火種別
※図示による	・紙　・繊維　・無機質　※プラスチック	・不燃　・準不燃
・	・紙　・繊維　・無機質　※プラスチック	・不燃　・準不燃
・	・紙　・繊維　・無機質　※プラスチック	・不燃　・準不燃

(19.8.3) 素地ごしらえ

下地	種別
モルタル・プラスター面	・Ａ種　※Ｂ種
コンクリート・ＡＬＣ面	・Ａ種　※Ｂ種
せっこうボード面	・Ａ種　※Ｂ種

9．断熱・防露 (19.9.2)

断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ﾋﾟｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材	・２５　・	※図示による
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材(ｽｷﾝ層なし)	・２５　・	※図示による
・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材	・２５　・	※図示による
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材	・２５　・	※図示による
・ﾋﾟｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材	・２５　・	※図示による
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材(ｽｷﾝなし)	・２５　・	※図示による
・Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材	・２５　・	※図示による
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材（３種２号を除く）	・２５　・	※図示による

(19.9.3) 断熱材現場発泡工法

種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所
・吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ	※Ａ種１　・Ｂ種１	・２０　・	※図示による

(19.9.4) 断熱材あと張り工法（Ｓ１工法等）

種類	種別	厚さ(mm)	施工箇所
・ﾋﾟｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材	―	・２５　・	※図示による
※押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材(ｽｷﾝなし)	※３種ｂ	・２５　・	※図示による
・Ａ種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材	―	・２５　・	※図示による
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材（３種２号を除く）	―	・２５　・	※図示による

※押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材(ｽｷﾝなし)３種ｂの裏打ち合板、裏打ちせっこうボード、単体張りの範囲は図示による

19 内装工事

10．発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床下地張り工法 (19.10.1)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	施工箇所
発泡(基準階ﾀｲﾌﾟ)	※６００×９００	・	※図示による
発泡(１階ﾀｲﾌﾟ)	※６００×９００	・	※図示による
発泡(和室ﾀｲﾌﾟ)	※６００×９００	・	※図示による

※現場搬入時、パネル５枚抽出して質量を測定し、平均値が製造所の定める質量下限値以上であることを確認する
※捨て貼り合板の厚さ(mm)　・１２　・

11．乾式遮音二重床下地張り工法 (19.11.1)

種類	パーティクルボードの厚さ(mm)	捨て張り合板の厚さ(mm)	施工箇所
乾式(基準階ﾀｲﾌﾟ)	・２０　・２５	・５．５　・１２	※図示による
乾式(１階ﾀｲﾌﾟ)	・２０　・２５	・５．５　・１２	※図示による

※現場搬入時、パネル５枚抽出して質量を測定し、平均値が製造所の定める質量下限値以上であることを確認する

12．内装プレハブ工法 (19.12.2)

種類		樹種
製材	・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材	・
	・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材	・
	・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材	・
	・「製材の日本農林規格」以外の製材	・
造作用集成材	・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材	・
	・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材	・
	・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成材	・
	・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材	・
	・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材	・
	・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成材	・
造作用単板積層材	・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材	・
	・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材	・
床張り用合板等	・普通合板	・
	・構造用合板	・

種類		化粧板の樹種
化粧合板	・天然木化粧合板	・
	・特殊加工化粧合板	・

せっこうボードその他ボード類

規格番号	種類	記号	厚さ(mm)、規格等
JIS A 5430	・けい酸カルシウム板（タイプ２）	0.8FK 1.0FK	・６　・８
JIS A 6901	・せっこうボード	GB-R	・9.5　・12.5
	・シージングせっこうボード	GB-S	・9.5　・12.5
	・強化せっこうボード	GB-F	・12.5　・15
	・化粧せっこうボード	GB-D	・9.5　・12.5
	・		
	・		

鋼板の表面処理　※電気亜鉛めっき２種３級　・

20 ユニット及びその他の工事

1．フリーアクセスフロア (20.2.2)

構造	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	帯電防止性能	漏えい抵抗
・パネル構法 ・溝工法 ・	・５００	・	・1.0G ・0.6G	・3,000N ・5,000N	・0.6以上 ・1.2以上	

2．可動間仕切 (20.2.3)

構造形式	構成基材	遮音性 db/500Hz	表面仕上げ
スタッド式 スタッドパネル式 パネル式	・アルミニウム合金 ・スチール	・２８ ・３６	・メラミン樹脂焼付 ・アクリル樹脂焼付 ・壁紙張り

3．移動間仕切 (20.2.4)

操作方法		パネル表面材の材質	遮音性 db/500Hz	表面仕上げ
・手動式 ・電動式	・ハンドル式 ・ワンタッチ式	・	・２８ ・３６	・メラミン樹脂焼付 ・アクリル樹脂焼付 ・壁紙張り

4．トイレブース (20.2.5)

パネル表面材	脚部
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・

5．階段滑り止め (20.2.6)

材種	形状	厚さ(mm)	取付け工法
・ステンレス製(SUS304)ビニルタイヤ入り ・	・	・３５ ・	※接着工法 ・埋込み工法

6．鏡 (20.2.9)

縁なしの防湿性を有するものとする
厚さ(mm)　※５　・

7．表示 (20.2.10)

種別	形状寸法	材質	備考
・衝突防止表示	・図示　・	・図示　・	
・非常用進入口	・図示　・	・図示　・	消防法適合品
・室名札	・図示　・	・図示　・	
・ピクトグラフ	・図示　・	・図示　・	
・案内板	・図示　・	・図示　・	

8．ブラインド (20.2.12)

形式	操作方法
・横型	・手動式　・電動式
・縦型	・手動式　・電動式

9．ロールスクリーン (20.2.13)

操作方式	幅(mm)	高さ(mm)
・電動式	・図示による	・図示による
・スプリング式	・図示による	・図示による
・チェーン式	・図示による	・図示による

10．カーテン及びカーテンレール (20.2.14)

カーテン

形式		開閉操作
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動

カーテンレール

形式		材質	形状
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・ステンレス製 ・アルミニウム製	・角型 ・Ｃ型

11．浴室ユニット (20.2.15)

浴室ユニットの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　　）
種類、形状、寸法、材質等は図示による。

12．キッチンユニット (20.2.16)

キッチンユニットの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　　）
種類、材質、付属部品等は図示による。

13．郵便受箱 (20.2.17)

郵便受箱の品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　　）
形状、寸法、材質等は図示による。

14．手すりユニット (20.2.18)

手すりユニットの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　　）

種類	材質	形状	寸法等(mm)
・廊下用	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・スチール製	・手すり子タイプ ・目隠しタイプ ・図示による	・図示による
・バルコニー用	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・スチール製	・手すり子タイプ ・目隠しタイプ ・図示による	・図示による

15．補助手すり (20.2.19)

補助手すりの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　　）
形状、寸法、材質等は特記による。

工事名称	縮尺	図面 No
図面名称		6

21 排水工事

1．排水管 (21.2.1)

材種	呼び径
・遠心力鉄筋コンクリート管	・図示　・
・硬質ポリ塩化ビニル管	・図示　・
	・図示　・
	・図示　・
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・図示　・

2．鋳鉄製ふた (21.2.1)

名称	種類	適用荷重
・鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉型（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉型（テーパ・パッキン式）	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－20用

3．グレーチング (21.2.1)

材質	用途	適用荷重	メインバーピッチ
・鋼製	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－14用 ・Ｔ－20用	・普通目 ・細目
・ステンレス製	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用 ・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－14用 ・Ｔ－20用	・普通目 ・細目

4．街きょ、縁石、側溝 (21.3.1)

種類	形状・寸法
・縁石	・図示　・
・Ｌ形側溝	・図示　・
・Ｕ形側溝	・図示　・
・Ｕ形側溝ふた	・図示　・

22 舗装工事

5．カラー舗装 (22.6.2)

種類		部位		構成及び厚さ(mm)
加熱系	・アスファルト混合物	・車道部	・歩道部	・図示 ・
	・石油樹脂系混合物	・車道部	・歩道部	
常温系	・ニート工法	・車道部	・歩道部	
	・塗布工法	・車道部	・歩道部	

添加する材料　・着色骨材（　　）　・自然石（　　）

6．透水性アスファルト舗装 (22.7.2)

透水性アスファルト舗装の構成　・図示

7．ブロック舗装 (22.8.2) (22.8.3)

・コンクリート平板舗装

種類	寸法	構成及び厚さ(mm)	目地材
・普通平板	・３００角	・	・砂
・透水平板	・		・モルタル

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)
・普通ブロック	・車道部	※80　・	※5.0　・
・透水性ブロック	・歩道部	※60　・	※3.0　・

・舗石舗装

種類	形状	寸法(mm)
・	・	・

8．砂利敷き (22.9.2)

砂利敷きの種別
・Ａ種　（※通路　・　）
・Ｂ種　（※建物周囲その他　・　）

23 植栽工事、屋上緑化、その他施設整備工事

6．ウォール・擁壁 (23.6.2)

調査
支持力試験　・行う（方法：　）　・行わない

種類
・現場打ち擁壁
・プレキャスト擁壁
・ブロック積（張）擁壁
・石積(張)擁壁
・その他擁壁　（・ﾚﾝｶﾞｳｫｰﾙ　・ﾀｲﾙｳｫｰﾙ　・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸｳｫｰﾙ）

柱材料　※杉　※桧
防腐処理　・適用する（方法：　）　・適用しない

7．四つ目垣 (23.7.3)

8．柵 (23.9.2)

・パイプ柵
・ネットフェンス
　種類　・　寸法　・　mm
・焼丸太
　樹種　※杉　※桧　・

9．自転車置場ユニット (23.10.2)

自転車置場ユニットの品質及び性能
※優良住宅部品（ＢＬ部品）　・機材の品質・性能基準
・その他（　）
収容台数　・　台

10．物置ユニット (23.10.3)

材質	強度区分の種別	寸法	形状
・	・	・図示	・図示
・	・	・	・

24 ＰＣ工法による工事

3．溶接接合 (26.6.6) (26.6.7)

添えプレートの材質　・

フレアグレーブ溶接の余盛(mm)　・

溶接後の検査
超音波探傷試験　・行う　・行わない

4．スリーブ接合 (24.7.1)

スリーブ接合の材料　・
スリーブ接合の施工方法　・
スリーブ接合の検査　・行う（方法・　判定基準・　）
・行わない

5．狭小部充填コンクリート (24.9.1)

コンクリートの設計基準強度
Ｆｃ　（N/mm2）　（ＰＣ部材の設計基準強度以上とする）

6．敷きモルタルの圧縮強度 (24.10.1)

敷きモルタルの圧縮強度
Ｆｃ　（N/mm2）　（ＰＣ部材の設計基準強度以上とする）

22 舗装工事

1．路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)

盛土材料　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種

凍上抑制層　・適用する（材料　・　）　・適用しない
フィルター層の厚さ　・　mm

路床安定処理添加材料
・普通ポルトランドセメント
・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（・特号　・１号）
・消石灰(・特号　・１号)

路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験
・行う（・乱した土　・乱さない土）　・行わない

路床の締固め度の試験
・行う　・行わない

2．路盤 (22.3.2) (22.3.3)

路盤材料

種別	品質	厚さ(mm)
・	・	・

路盤の締固め度の試験
※行う　・行わない

3．アスファルト舗装 (22.4.2)

アスファルト舗装の構成及び厚さ　・図示　・

加熱アスファルト混合物の種類

区分	地域	種類
表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物（１３） ・細粒度アスファルト混合物（１３）
	・寒冷地域	・密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ）

シールコート　・行う　・行わない

アスファルト混合物等の抽出試験
・行う　・行わない

4．コンクリート舗装 (22.5.2) (22.5.3)

コンクリート舗装の厚さ

部位	厚さ（mm）	
・車道部	・150　・	・図示
・歩道部	※70　・	・図示

早強セメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ

23 植栽工事、屋上緑化、その他施設整備工事

1．植栽地の確認等 (23.1.3)

・土壌の水素イオン濃度指数（ph)試験　・行う　・行わない
・電気伝導度(EC)試験　・行う　・行わない

2．植栽基盤 (23.2.2)

種別	樹種等
・Ａ種	樹木
・Ｂ種	芝，地被類木
・Ｃ種	
・Ｄ種	

植え込み用土　・客土　・現場発生土の良質土

土壌改良材　・適用する（・パーク堆肥　・汚泥発酵肥料）
・適用しない

土壌改良材を適用する場合の使用量は、植込等の面積１㎡当たり、
パーク堆肥　50リットル　汚泥発酵肥料　10リットル

3．植樹 (23.3.2)

樹木の樹種、寸法、株立数及び刈込みものの適用並びに数量
※図示　・

支柱材　※丸太　・

幹巻き用材料　※幹巻き用テープ　・わら　・こも

4．芝 (23.4.2)

種類　※コウライシバ　・ノシバ
芝張りの工法
平地　※目地張り　・べた張り
法面　・目地張り　※べた張り

吹付けは種

種子の種類	発芽率	種子の量(g/m2)
※洋芝類（採集後２年以内） ・	※８０％以上 ・	

地被類

樹種	芽立数	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数

5．屋上緑化

・屋上緑化システム

土壌層の厚さ	排水層	植込み用土
・図示 ・１２ｃｍ ・３０ｃｍ	・軽量骨材 （層の厚さ：　） ・板状成形品	・人工軽量土 ※改良土

24 ＰＣ工法による工事

1．ＰＣ部材製造に用いる材料及び部品 (24.2.1)

セメントの種類
※普通ポルトランドセメント
※早強ポルトランドセメント
※混合セメントのＡ種

(24.2.4)

混和材料
混和剤
・ＡＥ剤　・減水剤　・ＡＥ減水剤　・高性能減水剤　・高性能ＡＥ減水剤
・流動化剤
混和材
・フライアッシュ
・高炉スラグ微粉末
・シリカフューム
・膨張材

(24.2.5)

鉄筋

規格名称	種類の記号	径(mm)
鉄筋コンクリート用棒鋼	・ＳＤ２９５Ａ	・Ｄ10～Ｄ16
	・ＳＤ３４５	・Ｄ19～Ｄ25
	・ＳＤ３９０	・Ｄ29以上
建築基準法３７条認定	・高強度せん断補強筋	

(24.4.5)

鋼材

規格番号	種類の記号
JIS G 3101	・SS400　・SS490　・SS540
JIS G 3106	・SM400A B C　・SM490A B C　・
JIS G 3114	・SMA400AW AP BW BP CW CP　・
JIS G 3136	・SN400A B C　・SN490B C
JIS G 3138	・SNR400A B　・SNR490B
JIS G 3350	・SSC400
JIS G 3353	・SWH400
JIS G 3444	・STK400　・STK490
JIS G 3466	・STKR400　・STKR490
JIS G 3475	・STKN400W　・STKN400B　・STKN490B
建築基準法に基づき指定又は認定	

(24.4.6)

接合用金物

仕上がり形状	寸法

2．ＰＣ部材の製造 (24.3.2)

コンクリートの種類
・普通コンクリート
・軽量コンクリート１種
・軽量コンクリート２種

(24.3.3) (24.3.4)

コンクリートの設計基準強度	水セメント比	スランプ
Ｆｃ　（N/mm２）	※５５％以下 ・	※１２cm以下 ・

(24.3.9)

かぶり厚さ

非耐力壁・床・屋根(cm)	耐力壁・柱・梁(cm)
※２０　・	※３０　・

(24.3.12)

タイル仕上げの工法
※タイル打込み工法　・

				工事名称	縮尺	図面 No
				図面名称		7

各工事の区分表

工事項目	建築	電気	機械	昇降	外構		備考
躯体への貫通孔							
貫通孔の材料	○	○	○	○			各工事に必要な貫通孔は各々の工事
貫通孔の墨出し	○	○	○	○			同上
貫通孔の取付け	○	○	○	○			同上
貫通孔の補強	○						
屋上							
機器及び水槽類の基礎	○						
同上基礎のアンカーボルト設置		○	○				
同上基礎の防水	○						
昇降機							
昇降機の躯体	○						
機械室の躯体	○						
機械室の床開口	○						
機械室天井フック	○						
ガイドレール下地	○						
ピット防水	○						
押しボタン、インジケーター	○						
三方枠、幕板取付け				○			
三方枠廻り埋戻し				○			
機械室換気設備			○				
制御盤から外部インターホンまでの配管、配線				○			
点検用コンセント		○					
その他							
インサート	○	○	○	○			各工事に必要な貫通孔は各々の工事
ＡＬＣ板の壁開口及び補強	○						
押出成形セメント板の壁開口及び補強	○						
竪樋、ドレン	○						
竪樋から第一桝までの接続	○						
第一桝以降の排水設備					○		
ハンドホール等の化粧蓋		○	○				
消火器			○				
消火器ボックス	○						
テレビアンテナ		○					
避雷針		○					
浄化槽			○				
受水槽			○				
ゴミ置き場					○		
自転車置場					○		

各工事の区分表

工事項目	建築	電気	機械	昇降	外構		備考
軽量天井・壁下地及び木天井・壁下地							
墨出し	○	○	○				各工事に必要な貫通孔は各々の工事
開口補強	○						
手すり下地補強	○						
吊り戸下地補強	○						
洗面化粧台下地補強	○						
天井・壁せっこうボード							
ボード切込み	○	○	○				各工事に必要な貫通孔は各々の工事
台所廻り							
キッチンユニット（流し台、ガス台、吊り戸）	○						
レンジフード			○				
棚下灯		○					
洗面所・浴室廻り							
洗面化粧台			○				
洗濯パン			○				
浴室ユニット	○						
浴室ユニット内照明器具	○						
浴室ユニット内水栓	○						
バスタオル掛け	○						
便所廻り							
衛生陶器			○				
補助手すり	○						
タオル掛け	○						
紙巻き器			○				
その他							
床・壁・天井点検口	○						
クーラースリーブ及びキャップ	○						
室外機用吊りボルト	○						
床暖房			○				

工事名称	縮尺	図面 No
図面名称		8